

2022



ANNUAL REPORT

# 今年、GLOCALは10周年を迎えました！

グローバルセンターは、「教育の社会化」を掲げて、様々な事業を実践してきました。

これは学校の教室が、教員と学生の間で閉じてしまっており、1人ひとりの変化を促す学びの場であるはずの教育に大きな制約がかかっていることを目の当たりにしてきたからです。

そこで、私たちは、その制約のもと行われてきた従来の講義中心の教育手法を超えて、対話型のアクティブラーニングの教育手法を用いたリアリティのある学習経験の提供、地域の企業、国、世界の課題など学校では扱うことが難しいトピックを題材にしたPBL・ワークショップを実践してきました。

さらに、学校だけでなく、企業人の研修にも、そのエッセンスを組み込むことで、新たな企業風土の構築や、企業内人材の育成も行ってきました。

これらの実践には、教育を学校の教育課程のみに頼るのではなく、社会全体で必要な学びを共有し、地域の企業、行政、社会人、NPOなどが寄ってたかって、創発して学び合う場や風土を形成すること、すなわち「教育の社会化」という考え方が一貫して存在します。

私たちは、京都以外の地域にも、この「教育の社会化」による教育の実践の輪を波及させ、

「風通しの良い社会」を創出することを目指しています。

また、未来の象徴である若者一人ひとりの色が発揮され、

「多様な個が自由に幸せに生きる、開かれた社会」を目指して活動しています。

そのために一つの課題を扱うのではなく、「若者(Youth)×様々なモノゴト(X)」により様々な課題を扱い、クリエイティブに解決していくことができる団体です。

広いテーマを扱いながら、より効果的に事業を進めていくための事業分類があり、

この報告書ではその分類に沿っていくつかの事業を紹介します。

## グローバル10年の歩み

### 2013,2

グローバルセンター設立  
文科省事業としての  
大学間連携事業開始

世代・分野・組織を超えた  
地域のアクターが教育の担い手  
となる新たなスタンダードづく  
りに向けて！

「教育の社会化」を掲げ、  
ALL KYOTOでつくるダイナミ  
ックなグローバル人材育成モデ  
ルで全国へのインパクト創出を  
目指す。



2015,5  
京都市  
「京都企業と連携した  
次代の京都を担う  
人材の育成事業」受託

2015,11  
留学生支援開始

2013  
「GPM資格プログラム」開始  
第1回「グローバル人材フォーラム」

## 2016

2016,4  
「仮認定NPO」取得  
寄附賛助会員制度導入  
(認定取得に向けた  
取り組み開始)

2016,12  
「グローバル  
シフトキャンプ」実施  
(異業種合同研修)

委託事業に頼らない運営を目指し「自主事業の開始」

キーワードは「対話」そして「SHIFT（変容）」。  
「風通しの良い社会」を体現するひとつの手がかり  
として、組織や社会を構成する個人の自己変革から  
組織変革を起こしていくサイクルを研修プログラムにし  
ました。

## 10周年に寄せて

DECADE 10年。  
日々、1人1人みなさんの共感と協働で、世代文化地域様々な BORDER  
を超えることができました。  
「個人」と「組織」、「働く」と「遊ぶ」、グローバルとローカル。  
未来の象徴である「学生」と「企業人」を  
シームレスにつなぐと宣言した10年前の社会との  
関りしるを少し柔らかくできたのかな？と感じています。

これからもみなさんと共にまだ別々になっている  
繋がるべきものを見つめ、世界のBORDERを曖昧にしていきたいです。  
感謝の気持ちでいっぱいです。

代表理事 行元沙弥

## 認定NPOとは？

皆さんは「NPO、非営利団体」と聞くと、どのような人やコトを想像されますか？お金を稼がないボランティアや任意の団体？と思われるでしょうか。

一口に「NPO」と言っても様々な団体がありますが、グローバルセンターは厳しい要件を満たし、京都市に認められた「※認定NPO法人」です。持続的な活動を継続していくために、寄附・助成金・自主事業を基盤に活動を行っています。また、グローバルセンターがNPO法人という形を選択しているのは、営利企業（産業界）や政府（行政）だけでは手が届きにくい人やテーマを扱いやすいNPO法人だからこそ、今の社会にある閉塞感を変えて行ける可能性があるかと信じているからです。

※日本で登録されているNPO法人団体のうち、認定を取得している団体は僅か2%です。



# 2023

グローバル人材  
開発センターは  
10周年を迎えました！

## 2021

2021,10  
トヨタ財団国際助成事業開始

グローバルセンターとして初の本格的な「グローバル」な試みとなる台湾・タイ・日本3か国共同での取り組みがスタート。若者の人材育成も兼ね、今後のアジア諸国との連携を見据えた関係構築を進めています。

2020,7  
「グローバルシフト  
プログラム」実施  
(高校生プログラム)

## 2020

2020,11  
2拠点目の開設  
QUESTIONコアパートナーとして  
「Students Lab」運営開始

学生が無料で利用できる「Students Lab」は中学生から大学生まで様々な学生が混じり合うサードプレイスであり、また日常的に多様な社会人と出会える場が新たな拠点となっています。

2019,4  
「認定NPO」取得

2020,6  
代表理事交代

大学生時代から設立メンバーとして携わってきた行元が代表理事に就任。私たちが目指す社会を体現する一人として世代や多様性をつなぐ若き代弁者となり、アクションを通じてメッセージを発信しています。

## 10周年記念イベントでの挨拶より抜粋

グローバルセンターは「大学の教育を改革しよう」というところからスタートし「教育の社会化」というビジョンを掲げました。日本の学校や大学は村社会的で教員と学生だけの関係性になっていないか、という疑問があったからです。この現状は教育環境としては制約的なものです。

だから、教育にもっと社会人からの力を借りよう、企業の力を借りよう、NPOの力をかりよう、無名でもいいから活動されている方の力を借りよう。寄ってたかって一緒になって変えていこうと動き出しました。自分自身はアカデミシャンで実業界の経験もないため、このビジョンを実現していくために頼りにしたのはやはり学問でした。つまり、グラノヴェーターとバードという二人の社会学者の理論です。実はその理論をまっすぐに組織づくりとその後の経営に応用したのです。ただ、自身は決してコミュニケーション能力が高い人間ではない、という自覚がありました。

そこで、できないことは他の人に補ってもらおうと、色んな企業の方、社会の方とお会いし、かつスタッフとして2人の学生(木槻と行元)に声をかけていきました。彼女たちが、本当にもう一生懸命に働いてコネクションを増やし、このNPOの理念も一緒に作り上げてくれたのです。その途中、今やバックオフィスの要である大橋さん(現事務局長代理)もチームに加わってくれました。

何よりもこうして進む中で、榊田さんとの出会いが決定的でした。グローバル人材のビジョンを語り合う中で意気投合してくださり、もともと経済同友会で進めていた若者就職支援機構構想と合体させていくことでも意見が一致。同友会をはじめ経済団体のオーソライズを得るために多大なご尽力をいただいたほか、商工会議所、経営者協会、工業会、そして個々の企業さんのサポートも沢山取り付けてくださいました。それまでのバックグラウンドが違って目指すところが同じ奇跡のようなチームワークができあがっていったのです。何事も一人ではできません。みなさんがいらっしやっただから今ここに立っていられます。

センター自身が理論と実践を往復しながら自ら変わっていく、生きたプロジェクトがグローバルセンターだと思っています。これからの10年もどうぞよろしくお願いいたします。

専務理事/事務局長  
中谷真憲

▼2023年7月7日開催  
設立10周年イベントの様子



# 皆さまからのご寄附が“学生が学校の外で無償で学べる機会”を作っています

# 762件

設立以来、個人・法人の  
皆様からご支援いただいた寄附総数

# 166件

2022年度、個人・法人の  
皆様からご支援いただいた寄附総数

いつもグローバルセンターの活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。2022年度のご寄附・賛助会費は、社会情勢等なかなか先行きが見通せない状況にも関わらず、**過去最高件数となる166件**のご支援をいただきました。

皆様からの多大なるご支援のおかげで、2023年2月15日に設立10周年を迎えることができ、更に「認定NPO法人」継続条件の1つである**年間3,000円×100件以上**の寄附の要件を達成することができました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。これからも、若者が未来に向けて可能性や多様性を広げていけるような仕掛けづくりや場の提供を続けてまいりますので、活動の継続、発展のためにも引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

2022年度 皆様から頂いた温かいご支援は、下記のとおりとなりました。

**166件 / 4,001,001円**

- ・賛助会費：3,617,000円（法人52件、個人34件）
- ・寄附金：384,001円（法人8件、個人72件）

## 寄附金は、このように活用させていただいております。

- 京都市外の学生（中学生、高校生、大学生）も遠方だからとあきらめず参加できるように、活動に興味を持った学生のための全国からの交通費補助として
  - 社会に開かれた学び合いの場を提供できるように、学生・社会人が学ぶイベントの開催費用として（会場利用料、保険代、講師謝礼、通信費用、印刷代、PC、タブレット、消耗品費、広報費、印刷費等）
- 例えば...
- ★毎月3,000円の寄附で、京都市外の関西圏の学生の交通費を10人補助することができます！
  - ★年間50,000円の賛助会費（法人）で、学生が普段日常では出会えない講師2名と出会うことができます！

## 学生からの声

自分が発言してる！  
ここにいる！って実感できる場所。  
自分のなぜ？から  
答えを導き出してくれる場所。  
安藤凜(京都すばる高校)

いろんな方とお話できて、  
未来のことを有意義に  
考えられるところ  
饒波隼人(花園高校)

知識・価値観が交わる場所  
高山楓太(京都先端科学大学)

自分の世界を  
広げてくれる場所！！  
古谷璃子(花園高校)

異なる生き立ちの人  
(価値観)と  
出会う場所。  
嶽公輔(同志社大学)

頑張りたい時、辛かった時に  
戻って来れる場所  
塩尻桃々(池坊短期大学)

居場所  
森賀優太(京都産業大学)

繋がりができる場所、  
自分に自信が持てる場所  
伊原実咲(関西外国語大学)

学生と社会をつなげる場所  
新月美(京都外国語大学)

学生が可能性を広げられる場を提供するために、下記にも活用させていただいております。

- ★活動を維持・発展していくための人件費
- ★私たちが働きやすい環境を整えるための事業費
- ★スタッフやインターン生が人材育成の手法や学びを取得するための図書購入や研修参加費

グローバルセンターでの理論と実践の往復が、私を成長させてくれました。「知識に貪欲に。行動に迅速に。思考に強靭に。」これは、事務局長の中谷先生から私への言葉です。

学生時代のインターンを経てグローバルで働き始めた時、京都企業の皆様や行政の皆様、大学関係の皆様と一緒にさせていただく中で、半人前の私は置いていかれないようにするために必死でした。そんな私を対等に扱い耳を傾けてくださる方の存在、たくさんの失敗も大目に見ていただける環境があったからこそ、本気で学び、本気で実践して失敗し成長させていただくことができました。若者が本気で学び、本気で行動して成長する。私が見せて頂いたこの景色こそ、これからもグローバルセンターが作りたい景色であり、オール京都で皆様と作ってきたプラットフォームだと信じています。



コーディネーター 木下京介

# グローバル人材開発センター 2022年度 事業一覧

## 1. 産学協働による大学教育プログラム・資格制度の開発・運用

1. PBL（課題解決型学習）の開発と運営、またその支援
2. 中学・高校・大学におけるアクティブラーニング支援 **PICK UP!**
3. 資格プログラムの実施 **PICK UP!**

## 2. 学生と社会人との円滑な接合を目指す教育セミナーの開発・運営

1. QUESTION ビル運営にかかるコンサルティング業務
2. 社員研修企画・運営 **PICK UP!**
3. 場づくり、ワークショップコーディネート
4. 学生と企業の交流イベントの企画・運営、またはその支援

## 3. 産学連携による京都企業の魅力発信

1. 京都企業と連携した PBL の開発と運営 **PICK UP!**
2. 京都企業と連携・協力した講義・演習（ゼミ）の支援 **PICK UP!**
3. 京都企業の魅力を伝えるセミナー・レクチャーの実施

## 4. 学生によるまちづくり・まちおこし施策の企画・立案・実施

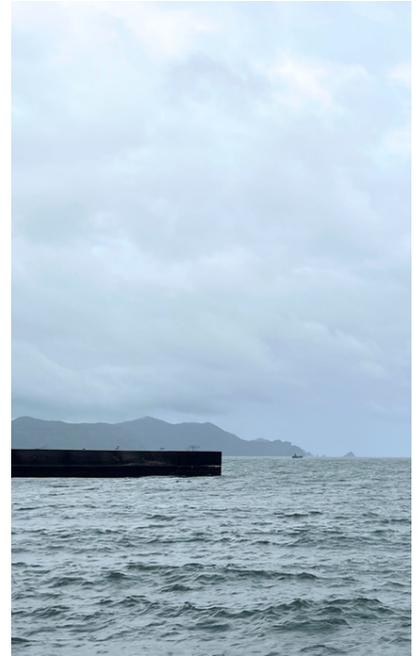
1. 学生によるまちづくり活動の企画立案・支援
2. 学生と連携した地域の支援・課題解決 **PICK UP!**
3. その他場づくり・プログラムの企画・立案・実施

## 5. 学生の京都企業への就職・定着を支援するための交流会等、産学連携活動の企画・立案・実施

1. 第10回「グローバル人材フォーラム」の企画・運営 **PICK UP!**
2. 企業と学生の連携支援（コーディネート） **PICK UP!**

## 6. 大学と企業の連携活動および採用に関する支援・助言、及び職業紹介事業

1. 大学・企業等の連携活動に係る会議の実施
2. 大学生（既卒生も含む）の職業紹介事業
3. 企業・大学等における講師派遣 **PICK UP!**



# 1-2 高校向けアクティブラーニング支援事業



どんな人材が育ったのか？

各校の授業目的に合わせたカリキュラム開発や授業設計はもちろん、学校と社会をつなぐ窓口として関わることで、生徒が自分と社会（世界）の関係を深く考えることができる機会の創出を行いました。生徒たちは「人間力」「ホスピタリティ」「越境者」等、各校の示す理想の人材像に向けて学びながら、地域社会や地域企業、そこで活躍する人との出会いを通じて、社会における自分を考え学び・行動する力を身に着けました。



起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

各高校におけるアクティブラーニングに関わることで、より多くの生徒が地域社会、地域企業とつながることができる機会を創出することができました。また、学校ではまだノウハウの少ないアクティブラーニングの企画や運営について、教員が体験し学ぶことができるようFD（ファカルティデベロップメント）のサポートを行うことで、各校でより質の高いアクティブラーニングを実施できるような基盤づくりにも寄与することができました。



次に何を目指す？

すでに授業支援を実施している学校とは引き続き教員と二人三脚でより良い授業づくりを行います。また、高校教員の皆様より、アクティブラーニングを担当する教員同士がつながり学び合うコミュニティ作りへのご要望を多くいただいています。グローバルセンターがカリキュラム開発を行うことはもちろんですが、アクティブラーニング型の授業を設計することができる教員の増加がより多くの生徒へのより良い学びを受ける機会創出につながると考えていますので、こういったコミュニティ作りや教員向けのプログラム開発についても検討をしています。



# 1-3 資格プログラムの実施 「GPM資格プログラム」



どんな人材が育ったのか？

ビジネスマインドと公共マインドを兼ね備えた人材「グローバル人材」の育成を目指して、6つの連携大学で取り組んでいるプログラムです。グローバルセンターは連携校の事務局として、プログラム実施する大学のサポートや資格プログラム運営をしています。



起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

大学での座学と、地域や企業と連携したPBLの双方を往復して実施することで、履修者自身は理論との実践を兼ね備えた学びと成長を得ています。また、若者が地域（産・官・学の共働）により育てられる場を体現しており、プログラムを継続することがグローバルの目指す「教育の社会化」を前進させています。



次に何を目指す？

開始後10年間、毎年約20名が資格取得しています。資格取得後に様々な分野で一人ひとりが活躍することが資格の価値をより高いものにします。今後も資格プログラムの報告会（グローバル人材フォーラム）を通じた地域社会への成果の共有に加え、社会に出て活躍しているOBOGのコミュニティのつながりの強化を目指します。



※GPM資格とは  
経済界、企業が求める能力を具体化した職能資格です。

# 2-2

## リカレント教育/生涯学習に かかる社会人向け研修

京都府生涯現役クリエイティブセンター受託事業



### どんな人材が育ったのか？

産官民協働で実施した全6回の研修では、以下の力の涵養を目指しプログラム設計を行いました。①自分の会社の魅力を再発見する力②人や状況に併せて、柔軟に対応する力③応援される力④グローバルの視野で物事を考えられる力⑤社内で小さくチャレンジする！実践する力⑥異なる組織でプロジェクトを遂行する力  
研修に関連して行われたトークイベント『Well-Learning Day in kyoto』では「良い学びとは何か？」という問いを世代を超えて見つめ「ドキドキしながら学びを楽しむ好奇心」を育む重要性が語られました。



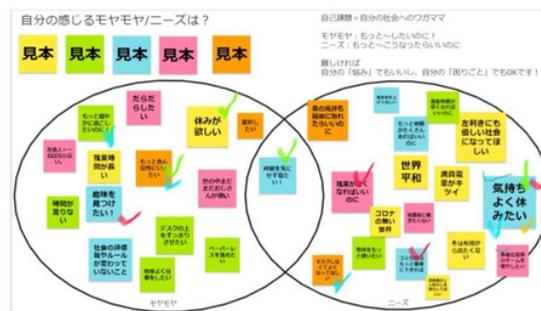
### 起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

VUCA時代に、これまでの当たり前を手放し新たな当たり前を組織内で構築していくためのプロセスを学びました。「会社や業種が違えど、悩みは近い」という声も見受けられました。またこれからの時代、どの企業もサステナビリティ・SDGsに取り組むからこそ「社会に貢献する前に、まずは自分の将来に貢献しよう。そしてその結果、社会に貢献しよう。」ということを共有しました。



### 次に何をを目指す？

政府がリスキリング支援に5年で1兆円を投じると表明し、2018年ダボス会議でも「2030年までに全世界で10億人をリスキリングする」という声明がありました。国や組織を挙げて学びの体制が整えられている今、グローバルセンターとしてもリスキリングとリカレント、リベラルアーツそのものの意味を見つめ、次世代と共に企業と個人、それぞれの観点から、多様な個が育まれる学びのあり方を提供することを目指します。



### 金融機関向け社員研修

### 「FUTURE SESSION PROJECT」(以下FSP)

### 京都信用金庫



### どんな人材が育ったのか？

対話を通じた①「コミュニケーション能力」②「豊富な知識・経験」③「ソーシャルマインド」の獲得を掲げています。研修で得た学びや気づきを日常業務での実践に繋げ、ジブンゴトとしてよりよい未来の実現を目指す真のバンカーの土台作りが「FSP」です。外部環境の変化や時代の潮流に影響を受ける時代だからこそ、世界規模の視野で現状を見つめた上で、地域や金融機関の原点から変わらないものを指針にアクション・進化し続ける「真のバンカー」の育成に携わりました。



### 起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

「お金とは何か?」「金融機関の役割とは?」「真のバンカー像とは?」こうした問いを眺めながら、参加者はもちろん、運営側や講師も含めて対話を繰り返した先に開かれる未来があります。自分で体験し、好奇心を持ち学び続ける個人がチームとなり「地域の血液」としての意志あるお金の流れをデザインする。そのような地域金融機関のバンカーを育てていくことで、地場産業を支えるコミュニティを生み出し、持続可能な地域社会・経済の地盤づくりに尽力しています。



### 次に何をを目指す？

FSPを日本全国のコミュニティバンク(地域金融機関)に届けていきたい。同じ問題意識に共鳴する仲間づくりを行うのが次のチャレンジです。各地域の様々な課題解決に取り組む中での「個人」の在り方を考え、他地域の金融機関との協働可能性を模索できる。グローバルな視野で物事を捉えながら、地域社会・経済をその地域に合わせて発展するコミュニティづくりや、地域と地域で繋がりより大きなインパクトを起こして行くことができる。そのような地域金融機関を増やして行くこと目指しています。



# 3-1

## 地域企業と連携した 次代の京都の担い手育成事業 京都市受託事業



### どんな人材が育ったのか？

京都市より事業を受託し「京都企業と連携した課題解決型プロジェクト」と「京都企業と学生の出会いの場としての交流会」を実施しました。企業の抱える課題や社会課題をテーマに、大学生・留学生在がチームとなり課題解決に取り組みました。プロジェクトや交流会に参加した学生は「京都企業の魅力」を学び「働くこと・仕事」について考え、地域社会で活躍するための実践的な力を身に付けました。



### 起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

大学のまち京都・学生のまち京都として、大学生・留学生在が街全体をキャンパスに学ぶことができる機会の創出を行いました。また、京都企業と連携したPBLを実施する中で、大学生は京都企業の魅力や特徴を、京都企業が大学生の柔軟な発想と今を生きる「時代の感性」を学ぶ機会となりました。



### 次に何をを目指す？

大学生と京都企業のより有機的な出会いと学びの場の創出に向けて、PBLに加え、新たな取り組みとして、より広く大学生・留学生在が一步踏み込んで京都企業への魅力を体感することができるよう、交流会からさらに企業訪問を行います。実際に目で見て触れることで感じられる場づくりを通じて京都企業の魅力を伝える機会の創出を目指します。



# 3-2

## 講義・演習（ゼミ）の支援 「グローバル人材論特殊講義」 京都産業大学



### どんな人材が育ったのか？

本事業は2012年度より継続し、京都企業を中心に第一線で活躍する講師を招き90分の講話とワークショップを行う授業の支援を行っています。教室を社会と見立て、先生だけではなく誰もが教育の担い手になれること、つまりグローバルが掲げる「教育の社会化」を講師に実感いただきながら教え学び合う風土を一緒に育てていただいています。「会社人」になることが前提ではなく「社会人」になるために必要な問いを扱い、学生たちは対話を通じイメージではなくリアルな社会を見つめる力、国際基準で思考し足元のローカルの発展を見つめる力を身に付けました。



### 起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

「働くとは何か？」「働き甲斐とは？」「これからの時代に必要な力とは？」「京都企業の魅力とは？」などのテーマについて、民間企業からNPOに至るまで様々な業種・職種の方からお話を伺いました。インターネット上ではなく実社会で活躍するロールモデルとの実際の対話を通じ、イメージではなくリアルな社会を知る学びの機会をつくることでそうした学びのあり方も伝えることができました。



### 次に何をを目指す？

以前学生として受講していた社会人が、講師として登場するという場面も増えました。振り返って「あの時、人材論講義があってよかった」と、社会とのかかわり方の手がかりや何らかのターニングポイント、きっかけになることを目指します。多様な講師を迎えつつ、学生時代に自分が受けたかった授業を社会人になって自分が創る、受講生から講師になるという循環をこれからも長期的に作り続けていきたいと思えます。

# 4-2

## 高校生対象プログラム 「Glocal Shift Programme」 三菱みらい育成財団助成事業



### どんな人材が育ったのか？

社会課題の解決を目指して京都と全国から集まった高校生を対象にリアル&オンラインハイブリッドでプログラムを実施しました。最終報告会「オープンセッション」では、自分の関心ごとの周りに集まった初対面の人達との意見交換の場でファシリテーターをする高校生の姿がありました。



### 起こしたいインパクトに繋がる どんな成果があったか

参加者は自分の目や感性で課題を発見し設定する力や、他者と協力して解決に向けたスモールステップを踏み出す力を育みました。また、報告会は世代や肩書きを越えた多様な大人と学生が混ざり合い「地域が若者を育てる」姿が体现された場となりました。



### 次に何をを目指す？

これまでの実施の中で得られたエッセンスを元に、高校生を中心に大学生から社会人までが学び合うワークショップへの進化を目指しています。「スポンサーや社会人参加者として巻き込まれたい!」「若者の成長を応援したい!」という方と一緒に次の一歩を作って行きたいと思います。



## アジア3カ国協働プロジェクト 「Power to Change」

トヨタ財団国際助成事業



### どんな人材が育ったのか？

気候変動と貧困問題という巨大な課題を同時に解決する新しいビジネスモデルを日本で構築するには、どんなアプローチが必用なのか。参加学生はアジアで進む最先端の取り組みを、台湾とタイのチームとの議論や現地調査を通じて英語で学びながら、日本の現状をグローバルスタンダードで見つめる力を身に付けています。そしてこのプロジェクトへ参画してもらえるよう企業を巻き込むためには、どんな日本語で何を伝えるべきなのかを試行錯誤しながら学んでいます。



### 起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

国境を超えた自治体レベルのネットワークを活用し、気候変動を社会システムの変換によって解決することで、若者が希望を持って生きることのできる社会づくりを担う若者が育っています。また、ソーシャルインパクト創出のためのアジアとの協働基盤の構築にも繋がっています。



### 次に何をを目指す？

企業のCSR、人材育成、新規事業のための取り組みの一貫として、一十モデルをワークショップを有償で展開し、社会課題解決を根幹事業に織り込む手法を思考・実践できる人材・チーム・企業を増やすことを目指しています。

# 5-1

## 第10回「グローバル人材フォーラム」の企画・運営



どんな人材が育ったのか？

大学間連携事業「GPM資格プログラム」の成果報告会として、連携校の人材育成の成果を共有しています。報告会に向けて成果をふりかえり、プレゼンテーションに取り組む学生の伴走や報告会の企画運営を行い、学生がより自分自身の取り組みに誇りと責任を持って地域に還元できるような場づくりを目指しています。また、交流型の報告会に参加した社会人や報告者以外にも学びのあるフィードバックへの参加の仕組みを取り入れています。



起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

この報告会では報告を一方的に行うのではなく、報告を受け取り、次につなげていく受け手も重視しています。全員が参加者として場を開くことで「教育の社会化」を体験できる機会が生まれています。



次に何をを目指す？

いま、初期にプログラムを受講した学生は社会人となり約10年目を迎えています。若手から中堅社員へと成長する中で見えてきた実社会の姿や、その中での活躍、多様な生き方などを報告会の場に持ち帰り、現役学生とOB/OGを含む社会人の交流がより実りのあるものになることを目指していきます。



第10回はオンライン開催いたしました

# 5-2

## 「大学・学生の力発揮推進事業」 京都府受託事業



どんな人材が育ったのか？

人口当たりの大学数が日本一を誇る京都府には、大学の「知」・学生の「力」との連携による持続可能な「大学・学生のまち」の実現に向けて、地域と連携して諸課題に取り組むプロジェクトを進める大学が多数あります。この事業では、そうした大学の中でも「きょうと府内定着等推進事業」としてプロジェクトに取り組んだ大学への支援や、各大学の人材育成や地域・企業連携の成果を教諭する場として成果報告会を企画運営しました。地域で学び、地域に活力をもたらす学生の事例やリアルな姿を、学生自身の声で地域社会へ届けました。



起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

持続可能な「大学・学生のまち」をはじめとする政策の実現に向けて取り組む京都府、多様な学生の受入れや学生の府内定着に取り組む大学、地域や企業との連携に携わる方々が一堂に会する報告会では「大学や学生の力による未来の京都づくりを推進する」という目的が共有され、異なる年代・立場の同士が入り交じり、フラットな雰囲気での交流が生まれました。



次に何をを目指す？

行政、地域、企業、大学、それぞれの立場からでは見えない部分もフラットに話し合える場づくりは、当センターが社会に生み出した場の一つです。今後も、行政からの依頼だけでなく、垣根を越えて場づくりをしたい企業や地域、大学等の交流の声に耳を傾けた場づくりを行っていきます。



# 6-3

## 企業・大学における講師派遣 各種講演等



起こしたいインパクトに繋がるどんな成果があったか

2022年度も、有難いことに産業界から大学、民間企業、地方自治体など多岐に渡る団体から様々なテーマでの依頼をいただきました。

### ●依頼元

- ・一般社団法人 京都経済同友会
- ・株式会社 ドコモgacco
- ・十文字学園女子大学
- ・京都大学大学院経営管理教育部
- ・龍谷大学
- ・高校コンソーシアム京都
- ・京都府立京丹後緑風高等学校
- ・大阪府立東淀工業高等学校
- ・日新電機 株式会社
- ・公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 等

### ●テーマ

- ・「学生と京都企業による、問いからはじまる未来に向けたコラボレーション！  
～ALL KYOTOのグローバル人材育成の10年の軌跡とこれから～」
- ・「地域で学ぶ、地域と学ぶ 京都編 ～若者とワクワク学び合える地域をこれからの当たり前～」
- ・「女性のエンパワーメントとジェンダー平等」
- ・「グローバル社会起業」
- ・「地域連携型教育フォーラム～グローバルな視点でローカルに生きる若者と企業をつなぐ実践的な学び～」
- ・「ファシリテーショングラフィック研修」
- ・「アントレプレナーシップにかかる授業」
- ・「地域創生の取り組み」
- ・「SDGs研修/アイデアソン」 等

### ●その他、登壇等

- ・創業手帳インタビュー
- ・日中留学経験者交流会
- ・福井県勝山市まちのデザインスクール2022
- ・一般社団法人世界一周大学 等

GLOCALの活動や学生の活躍を多くの方に知っていただく機会として取材や登壇は積極的に引き受け、広く発信を心がけていきたいと思っております。



### 京都経済同友会支店長部会

「学生と京都企業による、問いからはじまる未来に向けたコラボレーション！～ALL KYOTOのグローバル人材育成の10年の軌跡とこれから～」



### ドコモgacco オンライン講義

“gacco LIVE”『地域で学ぶ、地域と学ぶ 京都編 ～若者とワクワク学び合える地域をこれからの当たり前～」

# 会員・寄附者一覧

## 正会員（法人）

京都商工会議所  
一般社団法人京都経営者協会  
一般社団法人京都経済同友会  
公益社団法人京都工業会  
一般社団法人京都中小企業家同友会  
京都信用金庫

## 賛助会員（法人）

株式会社アグティ  
株式会社イシダ  
尾池工業株式会社  
株式会社大垣書店  
小川珈琲株式会社  
株式会社片岡製作所  
株式会社京写  
京都エレベータ株式会社  
株式会社ケービデバイス  
株式会社阪口製作所  
佐々木化学薬品株式会社  
株式会社サン食品  
一般財団法人三洋化成社会貢献財団  
株式会社ジーマックス  
株式会社GSユアサ  
株式会社JTB 京都支店  
株式会社島津製作所  
菅原精機株式会社  
株式会社SCREENホールディングス  
第一工業製薬株式会社  
大和電設工業株式会社  
株式会社松栄堂  
株式会社塚腰運送  
東邦電気産業株式会社

## ご寄附頂いた法人

株式会社AFRIKA DOGS  
綾羽株式会社  
生田産機工業株式会社  
グッドエイチビードットコム株式会社  
有限会社くらむぼん出版  
株式会社トモエサウル  
株式会社マイナビ京都支社

## 賛助会員（連携大学）

京都光華女子大学  
京都産業大学  
学校法人京都橘学園 京都橘大学  
京都文教大学  
学校法人佛教教育学園 佛教大学  
龍谷大学

株式会社ドコモ gacco  
株式会社特殊高所技術  
長津工業株式会社  
株式会社長津製作所  
株式会社名高精工所  
株式会社ナベル  
奈良信用金庫  
株式会社西浅  
日新電機株式会社  
日東薬品工業株式会社  
日本新薬株式会社  
株式会社ボックス・サワダ  
税理士法人be  
株式会社藤井合金製作所  
株式会社フラットエージェンシー  
ボストン・コンサルティング・グループ合同会社  
株式会社堀場製作所  
村田機械株式会社  
株式会社村田製作所  
株式会社メディケア・リード・ジャパン  
株式会社ローバー都市建築事務所  
株式会社ワクワクプランニング

（五十音順・敬称略）

## 特定非営利活動法人グローバル人材開発センター

### [ 事務局 ]

〒602-8061  
京都市上京区甲斐守町97番地  
西陣産業創造会館2階  
平日 9:30~17:30  
Tel : 075-411-5010  
Fax : 075-411-5011  
Mail : info@glocalcenter.jp

### [ Students Lab Office ]

〒604-8006  
京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町  
390-2 QUESTION 5階  
平日・土曜日 12:00~20:00  
Tel : 070-5262-7066

グローバル人材開発センター

# GLOCAL

Glocal Human Resources Development Center

### WEBSIGHT



<https://glocalcenter.jp/>

### SNS @glocalcenter



facebook



twitter



instagram